

Top Message	環境本部長インタビュー	特集 Human Centric Intelligent Society	第7期富士通グループ環境行動計画	Chapter I 社会への貢献	Chapter II 自らの事業活動	環境マネジメント	データ編
環境会計／環境債務	事業活動における環境負荷	GHGプロトコルスタンダードに基づく温室効果ガス排出量の報告	補足データ	環境パフォーマンスデータ算定基準	環境活動に関する報告対象組織の一覧表	第三者審査	GRIガイドライン対照表

環境会計

2014年度実績の内訳(設備投資・費用・経済効果)

項目		主な範囲	コスト(億円)		経済効果(億円)
			設備投資	費用	
事業 エリア内	公害防止コスト・効果	大気汚染防止、水質汚濁防止等	3.2 (-17.1)	47.7 (+1.4)	67.6 (-0.5)
	地球環境保全コスト・効果	地球温暖化防止、省エネルギー等	6.6 (+1.1)	28.6 (-3.2)	19.2 (+0.3)
	資源循環コスト・効果	廃棄物処理、資源の効率的利用等	0.6 (+0.6)	24.0 (-0.9)	111.1 (-15.2)
上・下流コスト・効果		製品の回収・リサイクル・再商品化等	0.2 (-0.0)	8.3 (-0.1)	5.2 (+0.5)
管理活動コスト・効果		環境マネジメントシステムの整備・運用、社員への環境教育等	0.2 (+0.0)	26.6 (-4.6)	3.8 (-2.3)
研究開発コスト・効果		環境保全に寄与する製品・ソリューションの研究開発等	0.2 (-1.6)	379.1 (+72.7)	655.1 (+96.5)
社会活動コスト		環境保全を行う団体に対する寄付・支援等	0.0 (-0.0)	0.4 (+0.1)	－
環境損傷対応コスト・効果		土壌・地下水汚染に関わる修復等	0.2 (-0.3)	0.7 (-5.1)	0.0 (+0.0)
合計			11.2(-17.3)	515.4(+60.4)	862.1(+79.2)

※()内は前年度比。四捨五入の関係で、内訳と合計は一致しないことがあります。"0.0"と表示されている項目には、表示単位未満の値を含む場合もあります。

環境債務

環境に関する債務

富士通グループは、将来見込まれる環境面の負債を適正に評価するとともに、負債を先送りしない企業姿勢や会社の健全性を理解いただくために、2014年度末までに把握している「次期以降に必要となる国内富士通グループの土壌汚染浄化費用および高濃度PCB廃棄物の廃棄処理費用、施設解体時のアスベスト処理費用」102.3億円を、負債として計上しています。

2014年度のコストと経済効果

2014年度の集計の結果、費用が515億円(前年度比13%増)、経済効果が862億円(同10%増)と、費用・経済効果ともに増加となりました。また、設備投資は11億円(同61%減)となっています。

お客様・社会の環境保全に寄与する製品・ソリューションの研究開発を推進した結果、研究開発費用と経済効果の大きな伸びにつながりました(経済効果の算出は当社独自の推定方法)。

費用と経済効果の推移

